日常生活を快適にこなす トラベルトレーラーの 十分な装備群

キャンピングカーの装備といえば、ある程度同じものが使われていることも多いが、トラベルトレーラーにはトレーラーならではの装備というものもある。すべて紹介するのは難しいので、今回はたいていのモデルで採用しているものに的を絞り、その機能と内容を列挙することにしよう。

●エントランスモスキートネット
エクセルは車両価格が高いこともあって、エントランスには上下スライド式のモスキートネットを標準装備。夏場は換気に重宝する

●セパレートドア
上下2分割にできるため、車内に犬などのペットを入れているため換気をしていても"脱走"される心配がない

●カプラー
けん引車とトレーラーをつなぐトレーラー側のパーツで、けん引車のヒッチボールにかぶる部分。
また、トレーラーの灯火類点灯用、サブバッテリーなどへの電源供給用に用意されている接続器具も、カプラーと呼ぶ。

●ドローバー
トレーラーのカプラー以後、キャンピングシェルを支えるメーンフレームまでをつないでいる部分。

●ジャッキホイール
ドローバーなどに取り付けられ、クランクハンドルなどによるジャッキ機能を持ち、地面側にホイールが付いていて、トレーラーをけん引車から切り離しているときの移動を楽にさせるための装置。

●ヒッチメンバー
トレーラーをけん引するためにヘッド車両に取り付ける、強度的に重要なパーツ。たいていの場合は、けん引車専用に設計されたものを取り付けて使う。

●ヒッチボール
ヒッチメンバーにマウントとともに取り付けられ、直接トレーラーのカプラーと連結される部分。ボールの口径は、日本におけるライトトレーラーのカテゴリーだと、だいたいアメリカ系のものは2インチ、ヨーロッパ系のものが50㎜と大別でき、けん引可能重量により等級も分かれている。

●慣性ブレーキ
ヨーロッパ系のフレームは、機械式慣性ブレーキが多く、アメリカ系では電磁ブレーキが主流。
機械式慣性ブレーキで有名なのはアロイスコーバ、通称アルコシャシーで、ショックアブソーバーとカムとリンケージによってブレーキがうまいことポンピングブレーキ状態でかかる。
電磁ブレーキは、けん引車側にコントローラーを設置し、ブレーキング時のGの強さを検知し、それに対応した信号をトレーラーのブレーキに伝え作動するようになっている。コントローラーではテコンシャが有名。

●スタビライザー
ヨーロッパ系のスタビライザーで最近の流行は、アルコ、ウエストファリアなどが出しているカプラーに組み込まれたもの。これ1つでだいぶ走行安定性が高まる。
アメリカ系では、基本的にカプラー重量がかかるタイプが多いのであまり付けないが、トレーラー重量が大きくなると、ディストリビューションヒッチとスウェイコントローラーの組み合わせになる。

●スタビライザージャッキ
キャンピングトレーラーの床下4隅に取り付けられ、若干の姿勢補正と揺れ止めの機能を持たせる、多くはクランク操作で稼働するパンタグラフジャッキ。
ジャッキとはいえ、車体そのものを持ち上げるような強度はなくあくまで揺れ止めの延長上、タイヤ交換などに使用してはならない。

●エクステンドミラー
けん引車とトラベルトレーラーの車幅段差からくる後方側面の死角を解消するため、けん引車のノーマルミラーなどに取り付ける延長ミラー。

●LPガス
トラベルトレーラーのほとんどはLPガスボンベが搭載でき、そのエネルギーを冷蔵庫などに有効

●エントランス用収納式ステップ
フロアが高いため子供や女性が乗降するには必需品。だが、標準装備しているクルマは少ない。後付けパーツもリリースされている

●常設ベッド下大型収納
常設ベッド下が、そのまま大きな収納スペースになるのは便利。ガスダンパー付きだから開閉が楽。外部からもここに収納できる

活用する。搭載機器とのガス圧力は合わせておく必要がある。

●**ウォーターポンプ**

アメリカ系では、プレッシャースイッチ内蔵のシャフローやフロージェットというメーカーの高圧タイプのポンプ。ヨーロッパ系ではタンクに沈めて使う水中ポンプタイプの低圧が多い。

単位時間当たりの水の吐出量が少ない低圧の方が、少ない清水を有効に使い切るには向いている。

●**コンロ**

アメリカ系では、マジックチーフ社製などのものが付いているとオーブンまで一緒になっている場合がある。イギリス製トラベルトレーラーなどには、通常のコンロだけでなく下向きのコンロも用意されていて、パンなどを焼くのに便利なものもある。

どちらも、着火はマッチでというのがいまだスタンダード。

●**洗面台**
エクセル390ＴＦタイプＣは、常設ベッド横にシンクとは別の洗面台が付く。大きなミラーとダウンライトの照明は高級感十分だ

●**3ウェイ冷蔵庫**

トラベルトレーラーでは、エネルギーの関係からかＤＣ12Ｖ1ウェイ冷蔵庫より、3ウェイ冷蔵庫装備と言うことがほとんど。

メーカーはエレクトロラックスやノーコールドで、コンプレッサータイプほど強烈な冷えは期待できないが、動作音は静かで室内にあっても全く気にならない。

●**暖房**

アメリカ系ではアトウッドとサバーバーンが有名で、正真正銘のＦＦヒーター。駆動に電源が必須なのとファンの音が気になる場合がある。欧州系ではトルマ、イギリス製ではカーバーが有名。こちらは対流式なので作動音は比較的静かで、着火時の火花用に電池があればいい程度。

●**温水器**

アメリカ系ではアトウッド、欧州系ではトルマが有名。どちらも貯湯式なので、短時間にガンガン使っていると次第に温度が下がってきてしまう。

リカバーはそこそこの時間で行なわれるが、特に貯湯量が10ℓタイプのものだとその傾向が顕著だ。また、つけっ放しにしておくと、案外にガスの消費量が多い。

●**サブバッテリー**

アメリカ系で電磁ブレーキを採用しているものでは、まず付いていると思われるが、ヨーロッパ系ではスタンダードではあまり付いていない。

●**断熱2重窓**

材質はポリ系でＵＶ加工された色つきのものと無色のものをモナカ状に張り合わせ、断熱性を高めているウインドウの総称。

●**ブラインド**

カーテンのほかに、サンプロテクトだけでなく、モスキートネットをも装備したロールブラインド装備のモデルが多い。

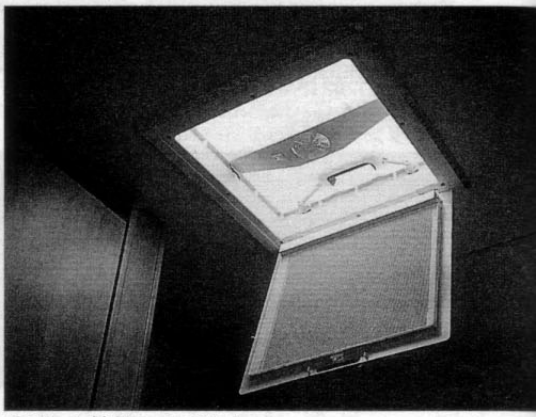
●**スカイライトウインドウ**

室内を明るくするため、透明で巨大なウインドウをルーフに取り付けたもの。

●**ルーフベンチレーター**

ルーフに開けられた換気口で、サーモスタットを取り付けファンで強制給排気して、室内温度を調節するものもある。

ヨーロッパ系のベンチレーターでは、フタの部分が2重になっていて、閉めた状態でもある程度の換気が起きるようになっているものもある。



●**ファン付きルーフベント**
ルーフベントは換気だけではなく、室内への採光の役目もある。ファン付きのルーフベントを備えるトレーラーは少ない

●**清水タンク**

日本で普通免許で引けるトラベルトレーラーの清水タンクは比較的小さい。なかには、タンクそのものを車内に固定せずに、転がして汲みに行けるポータブルタイプを用意しているものもある。

●**排水（グレー）タンク**

排水タンクを装備しないモデルもかなりあり、バケツや専用のタンクを用意する場合がある

●**ブラックタンク**

水洗トイレの場合の、汚物を一時的にためるタンク。

●**カセットトイレ**

便器をフロアに固定し、汚物タンクだけをカートリッジで車外から取り出せるようにしたもの。電動、手動給水がある。

便器ごと持ち出せるのはポータブルトイレと呼ばれ、トイレのないモデルに用意することもある。

ジェネレーターを持たないトラベルトレーラーでエアコンは使用できるのだろうか？

キャンピングトレーラーでもルーフに強度があるものは、ルーフエアコンを装着できる。だが、現実的にはジェネレーターを装備しないと、これらのエアコンを常時使用することはできない。それに走行バランスの問題やルーフエアコンが高価というのも、オーナーを悩ませる点だ。

そこで家庭用エアコンをトレーラーに使うという手法を取る人もいる。家庭用ウインドエアコンをエントランスドアに組み込んだり、エントランス部分に置いて使用するのだ。

問題は電源だが、キャンパーおなじみのハンディジェネレーター・ホンダＥＵ９ｉを使う人が多い。ただしどのウインドエアコンも回るというわけではなく、消費電力の小さいウインドエアコンを選ばないとＥＵ９ｉでは回しきれない。もちろん外部電源を取れる場合はまったく問題なく使える。

コンプレッサー内蔵の“冷風扇”も人気が高いが、これは純粋なエアコンではないので冷房を期待していると裏切られることもある。エバポレーターを冷やした熱気を排気するダクトを付けても、その吸気は室内の空気を使ってしまうし、車外から熱気を室内に取り込んでしまい効率が低下するというわけ。トレーラー内の除湿を期待するならば効果はある。

極め付きは工場などで使うスポットクーラー。これを車外に置き、ダクトを室内に入れるという方法。だが、これも大きなジェネが必要になってしまう。